

第16回日本エピジェネティクス研究会年会 公募研究班 古川亜矢子(京都大学)

2023年の6月19日と20日、一橋講堂にて開かれたエピジェネティクス研究会年会に参加いたしました。2019年以來、久しぶりの対面のみでの年会に加えて、海外からも4名の第一線の研究者が招待されておりました。今回の年会は、主に解析技術や情報に焦点が当てられていました。1日目では、午前中に“エピゲノム情報解析技術”、午後には“高次構造が担うエピゲノム制御”というセッションが行われました。講演を通じて、ChIP-seq、ATAC-seq、Hi-Cなどの次世代シーケンス解析技術の進展により、特定の細胞種やコンディションにおけるエピゲノム状態を包括的に解析できるようになっている現状を知りました。これらの技術の進歩によって、発現制御機構のみならず癌などの疾患ゲノムや細胞分化制御などにも



適用されていることにも驚きました。一方で、午後には、構造生物学を用いたクロマチンの制御機構の講演が行われ、原子レベルでの解析が各機能の詳細な解明にいかに関与しているかを再認識しました。私は、このセッションで発表の機会を頂戴しました。1日目の後半と2日目では、“細胞運命制御とエピゲノム”、“エピゲノム制御と疾患”といったテーマに関する講演が行われ、エピジェネティクスが様々な生命現象を理解する上でいかに重要な役割を果たしているかを改めて実感しました。初めてこの学会に参加させていただきましたが、多くの研究者や学生が活発な議論を交わす会場に感銘を受け、ポスター発表に参加できなかったことを残念に思いました。次回の年会を楽しみにしております。

